

# 国際協力の現場を語る

JICA（独立行政法人 国際協力機構）は開発途上国の発展を支援するため、実務の経験と知識を持った人達を「JICA海外協力隊」として派遣しています。この人達は海外旅行などでの体験とは違った、海外協力隊ならではの様々な体験をしています。赴任国で体験した、生活、文化、人々との触れ合い、苦労、喜び、伝えたいメッセージなどを熱く語っていただきます。

- ◆日 時：毎月第3水曜日 15時00分～16時45分
- ◆主 催：NPO法人 シニアボランティア経験を活かす会 ◆協力：JICA横浜
- ◆タイトル：シニアの挑戦!! 国際協力の現場を語る
- ◆会 場：横浜市消費生活総合センター5階会議室、7月17日のみJICA東京会議室  
(Web会議)併用
- ◆会 費：無 料  
どなたでも自由に参加でき同時にZoomによるWeb会議も実施しますのでこちらへも参加できます



会員以外の方でWeb会議への参加希望者は、

- 1.氏名 2.メールアドレス 3.「体験発表会参加希望」を明記の上、以下メールをお送りください。

メール宛先：info@jicasvob.com Web会議に参加するための招待メールをお送りします。

赴任国(講演者)	「タイトル」	講演概要
第221回 6月19日 (水) チリ・パキスタン・モンゴル (横溝清子)	 民族服着用週間	<b>「3か国での日本語教育分野の活動」</b> 2004年から2005年まで南米チリのバルデビアで、2006年から2009年までパキスタンのカラチで、そして2010年から2012年までモンゴルのウランバートルで日本語教育の分野でSVの活動をして来ました。どの国でも主な活動は現地の日本語教師に日本語教授法や教室活動の指導をすることでしたが、教材作成や弁論大会の指導などもしました。3か国での活動を中心に、それぞれの国で体験したことをお話ししたいと思います。
第222回 7月17日 (水) インドネシア・パプアニューギニア等 (香月柳太郎)		<b>「海外体験と社会還元活動」</b> 少年期より海外雄飛を目指し、16歳の時最初の海外旅行に出かけました。20代の半ば合気道指導のため渡英、帰国後は(社)産業開発青年技術協会にてインドネシアとの国際協力業務に従事しました。その後、30歳で青年海外協力隊に参加。パプアニューギニアに漁業隊員として派遣され、その後は、(公社)青年海外協力協会(JOCA)に勤務しました。これまでの私の様々な海外体験とJOCAについてお話ししたいと思います。
第223回 8月21日 (水) グアテマラ (鈴木亜依子)		<b>「隊員の経験そして能登半島地震」</b> 2007年からグアテマラに村落開発普及員として派遣され、主に内戦で山岳地帯に避難したマヤ先住民と活動を共にしました。赴任中は思いがけない出来事が沢山あり、とても充実した日々でした。帰国後は駒ヶ根訓練所スタッフ、選考業務等を担当し、昨年まで鳥取県で地方創生事業に携わりました。今年2月に災害ボランティアとして能登半島の輪島市に伺った時のお話なども含め、ご報告させていただきます。
第224回 9月18日 (水) コロンビア (藤原 健一)		<b>「コロンビア再生可能エネルギープロジェクト」</b> コロンビアの教育機関（日本の高等専門学校に相当）で、太陽光と風力のハイブリッド方式発電のプロジェクトを支援しました。風力発電は日本の大学から情報を得てレンズ風車を検討し試作しました。レンズ風車はその大学が開発した従来比 2～3倍高効率の能力を持った新技術です。その他の活動（電気・電子授業）や現地での生活、コロンビア各地の様子等もビデオをまじえて紹介します。
第225回 10月16日 (水) 中国 (秀嶋 安城)		<b>「中国の教師体験と中国の学校教育」</b> 中国には「高考」というものがあり大学の統一試験がある。1071万人の学生が受験し国家重点大学100校が選ばれている。この試験が人生運命の分かれ道とも言われている。中国でよい仕事を得るには学士以上であり、名門大学の学位が必要とされている。よほど緻密な学力のある学生でなければ有名校に合格できないので「高考」を回避する為「留学」という道を選んでいる学生もいると聞く。